

(別紙)

ユネスコ世界ジオパーク・カウンシル報告書
(山陰海岸ジオパーク再認定審査関係抜粋)

21) 山陰海岸 (日本)

i 当該国と関係ある中田節也氏は退出し、議論に参加しなかった。

ii 評議の要約:

評議会の審議は、ジオパーク内にある博物館による地質資源の販売に焦点が当てられた。評議会は、ジオパーク運営組織が地質資源の販売に関与しておらず、この博物館がジオパークのパートナーではないことを認識した。しかし、“玄武洞ミュージアム”はジオパークマップに記載されており、最も訪問者の多いジオサイトの1つのすぐ隣にあり、個人所有者によって経営されている。評議会のメンバーは、山陰海岸 UGGp が日本で最も古いジオパークの1つであり、地質資源の販売を思いとどませようとしていることは認識した。評議会メンバーは、ジオパークがその地域内にあるすべての組織と密接に協力し続け、日本ジオパーク委員会、日本ジオパークネットワーク、日本ユネスコ国内委員会と緊密に連携に協力してこの販売を止めることを奨励する。

評議会メンバーはイエローカードに投票した。

iii 山陰海岸 (日本) の再認定レポートのレビューに基づき、UGGpC は、次の指摘事項と共にイエローカードに評定することを決定した。

1 地質遺産のプロモーションと保全活動の改善

山陰海岸 UGGp 内にある“玄武洞ミュージアム”での地質資源の販売を中止させること。そのため、玄武洞ジオサイトの所有者である豊岡市やその他必要と思われる関係者及び組織と協力し、また日本ジオパーク委員会、日本ジオパークネットワーク、日本ユネスコ国内委員会、UGGp 評議会の支援を求めること。

玄武洞ジオサイトへの安全なアクセスを整備し、今後の域内でさらなる開発を行う際に、UGGp のさらなる視認性向上を目指すこと。

2 経営・業務の管理の改善

ジオパーク運営組織の中核となる事務局メンバー（ゼネラルマネージャー、ジオロジスト2名を含む3名の学術専門家）が、推進協議会と連携してジオパーク活動における関係者の結束と調整推進に確実に関与すること。

近隣のジオパークが行っている取り組みを参考にするなどして、UGGp の運営組織の独立性強化を検討すること。

3 パートナーシップ関係の改善

山陰海岸国立公園などの主要なステークホルダーと正式なパートナーシップ協定を締結し、緊密にパートナーシップ関係を強化すること。

ジオパークの運営組織に民間企業が積極的に関与していることを考慮し、ユネスコ世界ジオパークのロゴ適切使用についてのガイドラインを作成すること。山陰海岸 UGGp は、日本ジオパークネットワークおよび GGN から助言を受けることが望ましい。

ジオパークブランドの戦略に基づく地場産品ブランド化認証システムの開発の完成を目指すこと。

UGGp の中核施設において、GGN や APGN の認知度向上やジオパークのコンセプトの明確化を行い、また専用スペース「ジオパークコーナー」の設置を検討すること。これらが既に存在する場合は、古い情報を更新することが重要である。

4 ネットワーキング

国際的なジオパークのネットワーク活動への積極的な関与を継続するだけでなく、UGGp 内のコミュニティに存在する学校やその他のステークホルダーが関与するプロジェクトの活動を増やすよう努めること。

7名がイエローカード、1名がグリーンカードに投票し、1名が投票を棄権した。従ってイエローカードに決定した。